

■加藤弘之 政治学者、教育家。維新当初、議会制度紹介するなど開明的だったが、東京大学総理になるや思想転換。

かとうひろゆき

・ ・ ・ ・ ・ 1836 = 生。但馬国(兵庫県)出石藩士出身。

大塩平八郎乱 1837 = 1歳 :

政治学者・思想家・初めて議会制度紹介・

阿部正弘 1845 = 9歳 : 藩校に入学。

北斎没 ・ ・ ・ 1849 = 13歳 : 母死去。

万次郎帰国 ・ 1852 = 16歳 : 父に従って江戸に出、佐久間象山に兵学、洋学を学ぶ。

ペリー来航 ・ 1853 = 17歳 :

開国開港 ・ ・ 1854 = 18歳 : 再び江戸に出て、坪井為春の門に入り蘭学を始める。

安政大地震 ・ 1855 = 19歳 : 父の死により家督を継ぐ(一時帰郷)。

桜田門外変 ・ 1860 = 24歳 : 蕃書調所教授手伝となる。在職中ドイツ語を学び、西洋の政治社会を研究。

遣欧使節 ・ ・ 1861 = 25歳 : 「隣草」を著す。

生麦事件 ・ ・ 1862 = 26歳 : 結婚。

8月18日政変 1863 = 27歳 :

禁門の変 ・ ・ 1864 = 28歳 : 幕府の直参に選ばれ、開成所教授職並となる。

明治維新 ・ ・ 1868 = 32歳 : 「立憲政体略」を著し、欧米の立憲政治を紹介した。目付に転じ、ついで大目付御勘定頭となる。

初の日刊新聞 1870 = 34歳 : *「真政大意」を発表。幕臣であったにもかかわらず宮内省侍読に任命される。

廃藩置県 ・ ・ 1871 = 35歳 : 文部大丞、大外史、外務大丞となる。

学問のすすめ 1872 = 36歳 :

明治6年政変 1873 = 37歳 : 明六社同人となり、

佐賀の乱 ・ ・ 1874 = 38歳 : 民撰議院設立建白に際し、時期尚早論を展開したものの、

初の民間工場 1875 = 39歳 : 「国体新論」を著すなど、天賦人權論に立脚した平等思想の啓蒙に努めた。

西南戦争 ・ ・ 1877 = 41歳 : 開成学校総理について、東京大学法・理・文三学部総理を囑託され、

明治14年政変 1881 = 45歳 : 東京大学総理となると、

新体詩抄 ・ ・ 1882 = 46歳 : *自由民権運動の進展に対応し、進化論の影響から、その立場を回転させて人権思想の否認に傾斜し、「人権新説」を刊行して優勝劣敗の社会進化論へ“転向”、 「真政大意」「国体新論」をみずから絶版にした。
以後、進化論に立脚して、反天賦人權説を唱え、民権論を攻撃し、

帝国大学始 ・ 1886 = 50歳 : 森有礼文相と対立したため、東京大学総理より元老院議員に転ずる。

帝国憲法発布 1889 = 53歳 : 森有礼暗殺後、

帝国議会始 ・ 1890 = 54歳 : 帝国大学総長、貴族院議員に勅選。

郡司千島探検 1893 = 57歳 : 帝国大学総長を辞職。「強者の権利の競争」、

日清戦争始 ・ 1894 = 58歳 : 「道徳法律の進歩」、

日清戦争終 ・ 1895 = 59歳 : 宮中顧問官となる。

Bushidou ・ ・ 1899 = 63歳 :

ヒア/国産化 ・ 1900 = 64歳 : 男爵を授けられた。修身教科書調査委員会の委員長。

日露戦争終 ・ 1905 = 69歳 :

満鉄発足 ・ ・ 1906 = 70歳 : *帝国学士院初代院長、枢密顧問官に選ばれるなど、終始学界の重鎮の地位を保ちながら、

韓国反日暴動 1907 = 71歳 : 「吾国体と基督教」を刊行し、国体を擁護するとともに、キリスト教を攻撃し続け、

アラキ 創刊 ・ 1908 = 72歳 :

大逆事件判決 1911 = 75歳 : 、「それらを「基督教の害毒」として一書にまとめ、

明治天皇没 ・ 1912 = 76歳 :

明六社系思想家のなかで、もっとも代表的な絶対主義官僚学者としての生涯を送って、

民本主義 ・ ・ 1916 = 80歳 : 没した。